

平成29年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

## 1 附属高等学校天王寺校舎の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

### (2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

### (3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員504人(1学級42人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

484人 (男子248人・女子236人)

### (5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 0人, 教諭 29人(うち, 臨時的雇用7人, 育児休業1人, 再雇用職員2人, 休職中1人), 非常勤講師 13人  
事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人, 臨時用務員(調理師) 0人

## 2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、平成27年度SSH第2期の指定を受け、現在SSHの目的にそった教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

## 3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

## 4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

## 5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属校等学校天王寺校舎の平成29年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志をもち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。特に, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 生徒の学力向上と, 自律的な学習・生活習慣 の確立を進める。	①読む, 書く, 調べる, を軸とした授業 を中心に, 思考力, 表現力, 探求力, 想 像力を養い, 「生きる力」につながる言語 力を育てる。(国語)	「自立した読書人を育てる」をテーマにし た, 本年度の教育研究会の研究授業に, 重 点目標の意識した日々の取り組みを反映さ せることができた。	思考力の育成について課題が残 る。教材, 発問, 課題設定の吟味 のほか, 思考力を測る評価につい て再検討する必要がある。	B	特になし	B	
(2) 互いの個性と能力を 尊重する態度を育成し, 個々の力量を十分に発揮 させる。	②自らの思考や価値観, 判断理由等を 言語化し共有させる機会を授業で確保 し, 他者の価値観に触れる機会を多数設 ける。(社会)	探究活動, レポート, 発表やディベート等 の活動を発達段階に応じて取り入れ, 思考 の言語化や価値共有する機会が確保でき た。	単元や分野によっては発表の機会 が十分ではなかった点と, 評価基 準の作成に時間がかかりすぎた点 を改善すべき。	A	特になし	B	
	③基礎基本の定着と論理的思考力の育成 を目指す。ともに学びあうスタイルの授 業実践を行う。(数学)	研究会において, ICT機器を活用して知 識を組み合わせる形の授業を提案した。	早期からの学力不振生徒の指導の あり方について検討すべきであ る。	B	特になし	B	
	④指導内容によって授業形態を変え, 生 徒間の自立的協働を促す。家庭学習を習 慣づけ, 辞書や参考書を自立的に活用で きるよう指導する。(英語)	スピーチやライティングなどのアウトプ ット活動で自立的協働が見られた。適切な課 題により家庭学習を促進した。	より多くの活動において自立的協 働を促せるよう指導の工夫と徹底 をする。	B	特になし	B	
	⑤集団での学習活動におけるコミュニケ ーション向上と自立的な学習を促すよう 共通テーマを教科内で設定する。教科内 での情報交換を密にし, 工夫や組み みを共有する。(理科)	「理科における学びの自立を目指す評価の 工夫と改善」というテーマで, 教科会での 議論を活発に行った。	引き続き科会を充実させ, 情報交 換を密にする。	A	特になし	B	

	⑥パートワークの機会を多く設け、様々な能力を発揮して互いに高めあえる授業を展開する。(音楽)	パートワークの中で、知識技能のある生徒だけでなく、多様な能力が評価される機会を設けた。	積極性に欠ける生徒への対応や、パートワークの中での役割について検討する必要がある。	A	特になし	A	
	⑦教務関係の中高間連携・調整に努める。自由研究と課題研究等の連携を進める。(教務)	中高連携のための研修等は行えなかった。自由研究の優秀者が高校のSSH発表会に参加した。	研究のとの連携を進める。また、課題研究に関する研修や連絡会を開く。	C	特になし	B	
	⑧中高6年間を通じて、人権教育の視点から講演等を適正に配置し、人権意識を高める。(健康人権)	中高それぞれで3年間を見通した人権教育の検討を進め、一定の達成を見た。しかし6年間の見通しはできなかった。	中高6年間を通した人権教育を改めて検討する。	B	実施にあたり保護者への案内がない	B	保護者も参加可能な研修については全校的に案内する。
	⑨実力テストや外部模試を実施する。(進路)	予定通り実施した。	高3のテストについて、生徒にとってよりよい在り方を検討する。	B	特になし	B	
	⑩自治会行事を筋道立てて実施させる中で、自主自律に根差した集団を作らせる。(生指)	生徒の状況に応じた指導を行った。生徒指導部教員と生徒とのグループ討論を多用した。	生徒間での議論の活性化に向けた工夫が必要である。	B	特になし	B	
	⑪ICT機器を積極的に活用している教員の授業を周知し、普及を図る。(庶務)	中高で4種類の授業公開を行った。ネットワーク共有システムを利用して、教育資産の蓄積も行った。	研究部の行っている公開授業との差別化が不十分であったので改善すべき。	B	特になし	B	

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。 (2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	①授業をとおして心を豊かにし、姿勢や表情などへの意識を高め、安心安全な場を提供することで自己実現につなげさせる。(音楽)	小さな成功体験を数多く経験させ、他者の受け入れと自己尊重感につなげることができた。	セルフコントロールや心の在り方について、より知識を得る必要がある。	A	特になし	A	
	②老朽化している体育施設の補修や器具の安全チェック等を行う。(保健体育)	昨年に引き続き、体育器具庫を重点的に物品管理、整理整頓を徹底した。	経年による傷みが多く、こまめな安全点検を継続する。	B	特になし	B	
	③避難訓練等の内容を再検討し、防犯・防災の観点から全行的な安全意識を高める。(健康人権)	避難訓練の内容を改善した。定期的な安全点検を実施し、環境の整備と安全意識向上ができた。	避難訓練の事前指導をより充実させる。安全点検表を使いやすく改善する。	A	特になし	A	
	④必要な進路情報を確実に伝達する。生徒の適性に応じた進路指導を行う。そのために各種集会を活用する。(進路)	年間予定に沿って的確に進めることができた。	進路指導を取り巻く状況が変化していることに対応して、進路指導部の体制を再検討する。	A	別表に記載	B	3年間の早い時期からの指導のあり方を点検する。
	⑤ICT機器の管理方法の改善を検討する。(庶務)	大学との会議で附属学校のICT機器管理について協議した。	教員が担う仕事と専門家に任せることとの区別をする必要がある。	A	特になし	A	

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 附属校として求められる研究テーマを設定し、その取組と成果を発信する。 (2) 生徒の対外的な成果発表を支援する。	①知識や理解だけでなく、思考、判断、表現の評価についても妥当な基準を示し、主体的に学習に取り組む条件整備をする。(社会)	「リテラシー教育」を主眼におき、様々な情報から必要なものを取捨選択、利用する視点を継続的に与えることができた。	教育研究会や近附連等での発表の機会がなかったため、取り組みに対する意見を頂く機会が少なかった。	B	特になし	B	
	②数学オリンピックやSSH関連の大会への参加やプレゼンテーションを支援する。(数学)	数学オリンピックには22名が参加し、2人が本戦に進んだ。サイエンスデーではポスターで銀賞を受賞。マスカンプに2人が参加した。	数学科でアクティブラーニングをどのように進めるかの議論ができていないので検討が必要。	A	特になし	A	
	③学びの自立を目指す評価の工夫と改善」をテーマとして理科全体で取り組む。自由研究やSSH活動を教科として積極的に支援する。(理科)	小中高研究部会で、「深い学び、自律的な学び」について校種による違いをふまえて議論をした。生徒発表会における支援を行った。	校種を越えた授業見学をさらに積極的に実施する。	A	特になし	B	
	④附属天王寺の研究テーマに沿った研修を行い、30年度の研究発表に備える。(保健体育)	研修できたと言えない。	改めて研究会発表に向け準備を進める。	C	特になし	B	
	⑤学習活動における中高連携を推進する環境を整える。(教務)	図書館システムの電子化を推進し、調べ学習等の活動を支援する準備を進めた。	図書館の内容及設備の充実、電子化を進める。	B	特になし	B	
	⑥「学びの自立を目指す評価の工夫と改善」を学校全体の研究テーマとし、特に「主体的、対話的で深い学び」を取り上げて教科会、公開授業、小中高研究部会で日常的に取り組む。教育研究会や研究収録を、日常的な研究の発信の場としてより活用する。(研究)	「深い学び」に焦点を絞って教科会、公開授業、小中高研究部会での検討を通じて教育研究会での発表がなされた。研究収録にも掲載している。	教材や実践例は蓄積されてきたが、その評価については今後の課題となっている。次年度以降に重点的に取り組む。	A	特になし	B	

学校関係者評価における意見	2. (1) ④について特に多くの意見が出された。・進路に関する情報が提示される時期が遅い。先を見越した説明がほしい。・実テや模試の年間計画を示し、どの時期の成績をどのように評価すればよいかの情報をもらいたい。・多様な適性、個性に応じた進路の可能性を生徒、保護者両方に示してもらうことで、多様な進路への意識が開けるので、その観点でのガイダンスや卒業生の経験を聞く会を充実させてほしい。など。また、行事の時期の再検討への要望等も出されたが、学校としての考え方の説明には理解を得られた。子ども自身の「何のためにこの学校に入ったかが自覚されているのが大事」という声の紹介もあった。
---------------	---

